



PK 戦ではスタッフ全員で肩を組み行方を見守った

3連覇への軌跡  
決勝ハイライト

# Final JAPAN VS ITALY

— 決勝 —

日本 3 3 イタリア  
(3PK 2)

イタリア最後のキッカーのシュートを止めた時久に駆け寄る選手たち。3連覇の重圧を跳ね退け見事な優勝となった



120分の激闘の末、  
チームを救った神

時久早大のゴッドハンドが日本を3連覇に導いた。もつれにもつれた決勝は90分、延長前後半30分でも決着がつかず、PK戦に持ち込まれた。イタリア最後のキッカーのシュートを止めた瞬間、会場は歓喜の渦に包まれた。

決戦の地は初戦と同じ、アルサンジヤックスタジアム。ここではMF藤本(筑波大)が4得点と相性の良い場所、日本ゴールが沸き起こるなか試合開始。そしてゴールは突然訪れた。開始3分、藤本のシュートコーナーからMF齋藤(福岡大)につなぐと、そのままセンターリング。そのボールを187cmと長身のFW小松(関西学院大)がヘッドで決め、あっさりと先制。また19分には、DF小宮山(順大)が倒されて得た直接FKを、藤本が左足でゴール左隅に決め、0-1。しかしその2分後、気を抜いてしまったが、中央ヘドリブルで切り込んで来た相手選手をDF徳永(早大)がペナルティエリア内で倒し、PKを献上し、2-1に。さらに23分には右サイドを崩されて、同点に。このまま前半終了かと思われたその時だった。左サイドから上がったMF伊野波(阪南大)のセンターリングに小松がディフェンダー2人に競り勝ち、またもヘッドでゴール。教科書通りのすばらしいヘッドでの得点に、「うれしい」と小松、値千金の3点目を決めた。

後半にイタリアに同点にされ、延長戦にもつれ込む大荒れの展開。延長前半12分、MF齋藤(駒大)に代わり原(駒大)が投入され、辻尾(中大)との快速2トップが完成。決勝点が生まれるかと思ったが、惜しいところでディフェンダーに止められてしまう。

そんな中、大ピンチが。延長後半8分、DF齋藤(福岡大)がペナルティエリア内でファール。イエロ